

会 議 録

第 1 1 回定例会

開会 令和 7 年 9 月 2 5 日

教育委員会会議録

1 開 会 令和7年9月25日 午前10時

2 閉 会 令和7年9月25日 午前10時44分

3 教育委員会出席者

教育長	中川 斉史
委 員	島 隆寛
委 員	岡本 弘子
委 員	横田 賢二
委 員	糸井 恵理
委 員	武田 國宏

4 教育長及び委員以外の出席者

副教育長	松本 光裕
教育次長	海老名 正規
教育次長	眞梶 秀也
教職員課長	井利元 裕哉
いじめ・不登校対策課長	福多 博史
教育政策課長	地面 浩
教育政策課副課長	櫻木 大介

[開 会]

教育長 定例会を開会する旨を告げる。

[会議録の承認]

教育長 配付されている会議録を承認して差し支えないかを各委員に諮る。

各委員 異議なし。

教育長 会議録を承認する旨を告げる。

[教育長報告]

副教育長 9月定例県議会における質疑概要について報告する。

〈質 疑〉

島委員：キャリア教育について、最近是他県の企業から徳島県の高校への求人も来ており、人手不足で高卒者の採用も難しくなっている。所属している経済団体でも高校の先生方との座談会などをやっているが、地域によって企業を知る機会の豊富さにばらつきがあるように感じる。キャリア教育を進めやすい地域、進めにくい地域を見える化してもいいのではないか。若い人を地元に残していくために、地元企業も危機感を持ち、そのあたりの意識を高めていかなければならない。

横田委員：高卒者の採用は厳しい。他県でも同様に求人確保が難しい状況である。徳島には徳島の良さがあると言っても、現実的には県外から高校生が来るのは難しい。今後、高卒者の就職割合が横ばいだったとしても、高校生の絶対数は圧倒的に減っていく。企業としては、無人化やロボット化により生産性の向上を図ることや付加価値を上げるなどの対応をしていかなければ厳しい。

島委員：ある市で中小企業経営者が集う会議があり、市内の県立高校の魅力化を進めていかなければならないという話題が出た。県立校だから県がするだろうというのではなく、地元の高校に人が集まるよう、地元からも県と協力して地域外からの子供も通いやすい環境を作るといった提案ができれば、県教委も受入れやすいのではないかと話をした。高校の存続のためには今からやっておかねばならない。

武田委員：全国的な探究活動の会議に出席した際、県外の上場企業の人事担

当者から、自社の製品のPRと理系人材の育成を目的に、全国の高校の総合的な探究の時間に参画させてもらい、将来の大学卒業時を見据えたリクルート活動を展開しているとの話を聞いた。全国的な大企業でも、人材確保に危機感を持っている状況である。徳島県でも企業と高校や県内の大学とが連携して進めていかなければ県内に人が残らないのではないか。若い人にとって徳島が魅力的であるためには、徳島県の閉鎖的な意識も同時並行的に改善、改革をしていく必要があるが、小中高の教育においてどのように進めていけばいいのかと思っている。また、地域みらい留学だが、何人くらいが県外から来ているのか。不登校対策のところではカウンセラーや心理の専門家といった言葉がたくさん出てくるが、養護教諭と心理の専門家はそれぞれどういった立ち位置でどのような連携をしているのか。

真相教育次長：地域みらい留学だが、昨年度に制度を利用してやってきた人数は、海部高校は10名程度、池田高校は数名。

武田委員：海部高校に寮はあるのか。

真相教育次長：寮はある。以前は寮が2つしかなく、寮に入れないということもあったが、今は第3寮まであり、寮と食事があることは親御さんにとっても安心材料となっている。

武田委員：中学校の段階で県外に出て行く子供が増えている。一旦出て行ったら戻ってくる可能性は低くなるのではないか。

横田委員：県外へ出ても、戻ってくるかこないかは人によること、また、地域に根ざした小さな企業の中にもきらりと光る魅力的な企業もあるので、帰ってこないかと断定せずに考えていきたい。

武田委員：私学無償化が進めば、県外へ出て行く子供はもっと増えるのでは。

真相教育次長：そのおそれは当然ある。

横田委員：学力的な面だけでなく、スポーツで県外に行く子などもいる。

島委員：通信制の学校に行く子もいる。

岡本委員：学区制が緩くなり、ネットの高校や県外へ流れていったと聞いた。

教育長：選択肢が増えているということでもある。

海老名教育次長：養護教諭の件、不登校対策の24時間匿名相談アプリは外部の心理の専門家と契約して実施している。また、まだ十分とは言えないながら、スクールカウンセラーの配置も進んでおり、養護教諭がカウンセラーと子供を繋いでいる。不登校対応において、養護教諭は最初の入り口として大きな役割を果たしており、今後も外部人材などを十分活用しながら、学校の中で養護教員も含めたチ

ームで対応できるよう研修内容の充実などを図っていく。

武田委員：アプリの利用件数が５２９件もあることに驚いた。

海老名教育長：学校の中で話せないことをアプリで話しているという面もあるのかもしれない。

武田委員：外部の相談機関と連携するのは良いと思うが、内部の対応力が脆弱になっていくのではとの懸念がある。

糸井委員：県外に出る選択肢のない子供にどういう手助けができるか、その仕組みも考えていく必要がある。その結果として、県内に子供が残るということになると思う。

教育長：非常に重要な視点でのご意見だと思う。

岡本委員：少し前までは学校と社会は分離していたが、総合的な学習などで学校と社会とが少しずつ関わっていくことが増えてきた。これからは社会側から学校側に提案などの働きかけをしていかなければならないと考えている。小さな企業等では後継者がこれからどんどんいなくなるので、そうした働きかけを自治体が支援するなど、未来につながるようにしていかなければならない。また、生理用品の件だが、人に知られるのが嫌でトイレに持って行くのに抵抗があることがあった。貧困家庭やネグレクトの家庭の子が生理用品を手に入れるのは難しいと感じたこともある。必要な指導はしていくが、当たり前に行ってくる生理現象なので、生理用品をトイレに設置するのは良いと思う。

〔議 事〕

教育長 議案第３２号及び協議事項１を非公開として差し支えないかを各委員に諮る。

各委員 異議なし。

教育長 そのように取り計らうこととし、議事に入ることを告げる。

〔非公開〕

《協議事項１ 職員の処分について》

《議案第３２号 徳島県いじめ問題等対策審議会委員の任免について》

[閉 会]

教育長

本日の議事が全て終了したので閉会する旨を告げる。

閉 会 午前10時44分